



ちょうせつ
聴雪

天皇が日常を過ごされる御常御殿
のさらに北側、迎春や御涼所といっ
た奥向きの御殿に続き、御庭に面し
た風雅な「吹抜廊下」を進むと、孝明
天皇のお好みにより建てられた御茶
室「聴雪」があります。

聴雪は、安政度御造営（安政2年
〈1855〉）の2年後に建てられた入母
屋造、柿葺の御茶室で、上の間、中
の間、下の間、および水屋の間とい
う四つの部屋で構成されています。



聴雪は、孝明天皇が將軍徳川家茂を招いて酒宴を催されたり、右大臣近衛忠熙を召してお茶湯を催されるなど、プライ
ベートな空間として使用されました。

東西に三室並んだ一番東側の上の間は、四畳半のこじんまりとした部屋で、その北面と西面に襖が填められています。こ
の部屋の襖絵を担当した原在照は、京都御所で多くの障壁画を担当した絵師で（[葉其の七](#)で説明）、前記の杉戸絵も担当
しています。

北面の襖絵は「芭蕉犬」と題され、輪郭を用いず、主題の芭蕉や犬の形を墨で詳細に書き、金泥で霞を配置し奥行きのある
絵となっています。



ばしょうにいぬ
聴雪上の間 障壁画「芭蕉犬」画：原在照

左面の下方に画かれる二匹の犬
は、小型愛玩犬の種で、毛が長く、目がくりくりしていて、
愛嬌のある顔立ちをしています。



ちん
二匹の犬



ぶどうにリす
聴雪上の間 障壁画「葡萄栗鼠」画:原在照



葡萄を取ろうとする栗鼠



ぶどうにリす
西面の襖には「葡萄栗鼠」が画か
れています(写真:上段)。こちらも同
じ技法で、4面にわたり中央から分
かれた葡萄の枝が画かれ、たわわ
に実った葡萄を取ろうとしている三
匹の栗鼠が画かれています。

ちなみに「葡萄栗鼠」と題された障
壁画は、御常御殿の北御縁座敷に
もあります(写真:中段)。この杉戸

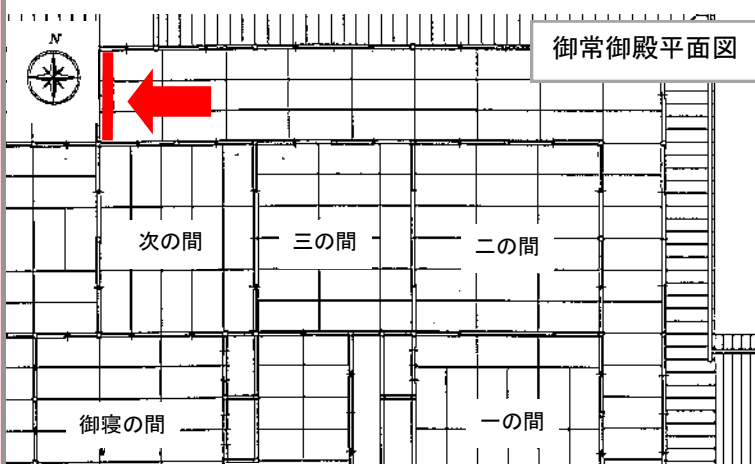
うめとざいしん
絵は梅戸在親が画いたもので、栗

鼠が枝を伝って葡萄の実を取ろうと
している場面が共通しています。在
親も原派の絵師で、原派は円山四
条派や土佐派などの技法を学び独
自の画風を築いた原在中を祖とし、
徹底して細部描写にこだわる流派と
言われています。



御
内
庭

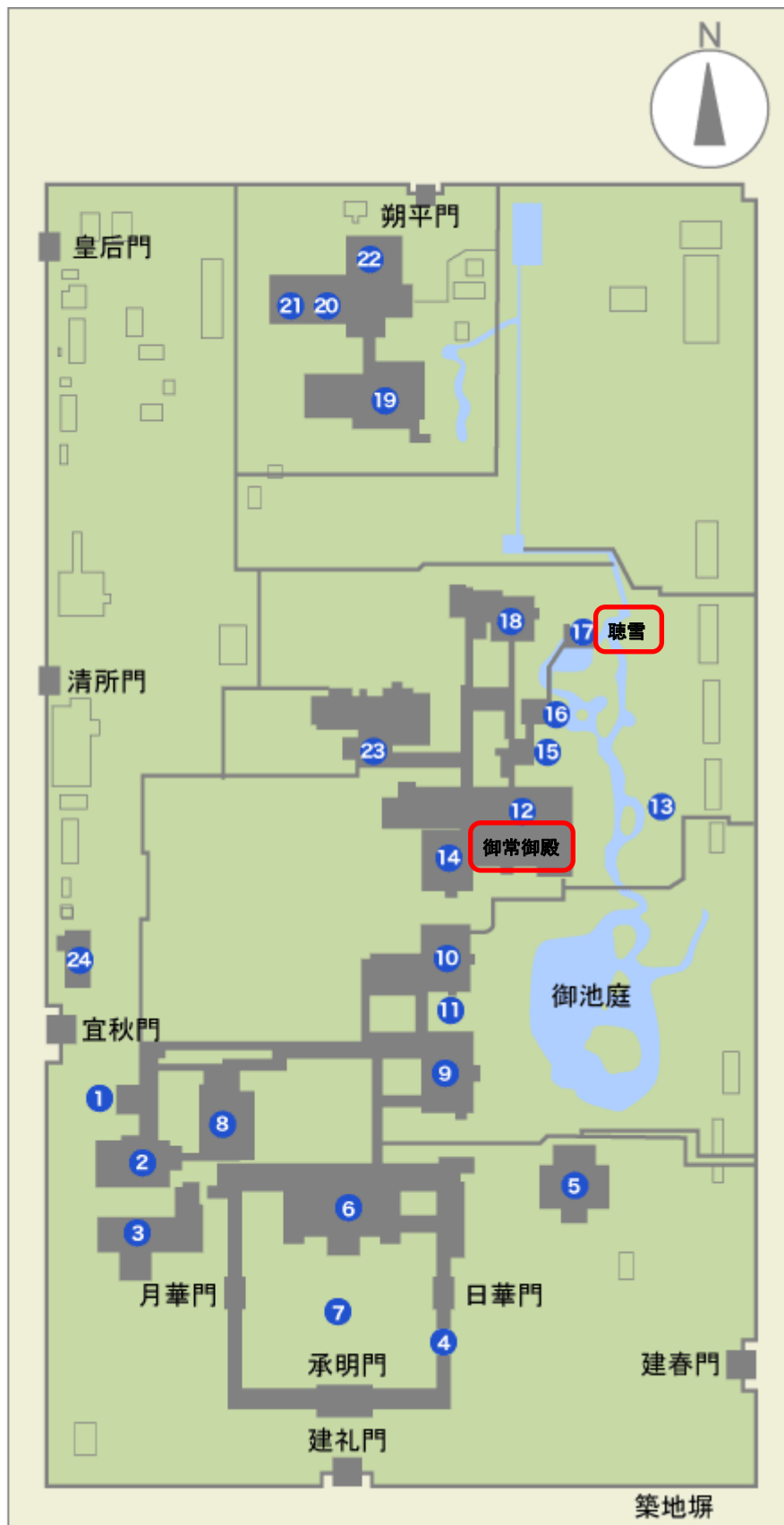
ぶどうにリす うめとざいしん
御常御殿北御縁座敷 杉戸絵「葡萄栗鼠」画:梅戸在親



杉戸絵「葡萄栗鼠」の位置

京都御所案内図

- ① 御車寄
- ② 諸大夫の間
- ③ 新御車寄
- ④ 回廊
- ⑤ 春興殿
- ⑥ 紫宸殿
- ⑦ 南庭
- ⑧ 清涼殿
- ⑨ 小御所
- ⑩ 御学問所
- ⑪ 蹴鞠の庭
- ⑫ 御常御殿
- ⑬ 御内庭
- ⑭ 御三間
- ⑮ 迎春
- ⑯ 御涼所
- ⑰ 聴雪
- ⑱ 御花御殿
- ⑲ 皇后宮常御殿
- ⑳ 若宮御殿
- ㉑ 姫宮御殿
- ㉒ 飛香舎
- ㉓ 参内殿
- ㉔ 参観者休所



観マークは、参観でご覧になれます。申込み方法は、<http://sankan.kunaicho.go.jp/> をご覧ください。

通マークは、申込不要の京都御所通年公開でご覧になれます。

詳細は、<http://www.kunaicho.go.jp/info/kyototsunen-sks-sankan.html> をご覧ください。

これまでの「《京都》御所と離宮の栞」については、宮内庁ホームページの[こちら](#)からご覧ください。

＜問い合わせ先＞
〒602-8611 京都市上京区京都御苑3 宮内庁京都事務所
代表電話：075-211-1211 参観係直通電話：075-211-1215